

# はじめに

## 「縁起」としての創造的川づくりへ ～「エンジニア」の役割～

「川の日」ワークショップの公開審査には、川づくりの担い手たちが多数集まりました。そこでは、やわらかい感受性、ねばりづよい意志、困難をふみこえる勇気、対立を力にかえる想像力、などなどたくさんの人間性に富む人々にめぐりあえた。

川づくりの担い手たちとのご縁。公開審査という直接参加者たちの出会いの場をもたらすことの豊かさ。公開審査は、人と人の創造的交流を生む場である。

そこでは、自然の恵みにひたされている川も、人工環境に汚染されている川も、それぞれの川には住民・行政・専門家たちが対象にじかにかかわり、いろいろな人のはたらきが縁りあって、目覚ましい事象が起こっている。

河川環境の整備・保全・育成の過程とは、多様な人々の活動が縁って起こる、お互いに影響しあって成立していく。これは「縁起」だ。

創造的川づくりは縁起である。

マニュアル通りの計画・事業には、みずみずしい出来事ややさしい風景は生まれにくい。思いがけない不思議な輝きをおびた場所や心わくわくする出来事は、いろいろの人の知恵と勇気と活動が縁りあっておこる。縁起としての創造的川づくりのイメージが、2日間にわたる公開審査で明るみとなったとともに、縁起としての川づくりにかかわる人々は、「エンジニア」ならぬ「エンジニア」だということの共感が会場にひろがっていった。

「エンジニア」は、目標・手段体系の合理的なくみたてに役割を見出す存在である。一方、「エンジニア」は、それを決して軽視することなく、加えて、生きとし生けるものも人工的なものも、生活者も行政も専門家も、楽しいこともわずらわしいことも、それら全ての連鎖の関係がお互いに浸みあい、お互いに縁りあっていることを、状況の中で追求・実現していく存在である。

「エンジニア」には、3つの役割がある。第1に、自然と人間、過去と未来の間にたゆまず縁を結ぶ役割。城原川では、原風景にみられる豊かな命の宿りを評価する視点をもって、イノチとモノの共存の技術をひらいた。

第2に、人と人との縁を結び、川にかかわることの喜びと楽しさをふくらませる役割。川歩きをしつつ、川にじかに触れることによって、人は身心の深いレベルで癒されていき、他者（自然と人間）への思いやりや慈しみの心が育まれていく。

第3に、次世代へのつなぎの役割。今回の一定のプロジェクトの中には、子ども参加がみられた。子どもが川を遊びと学びの場にしつつ、川を再創造していく。未来の意志決定者は子どもであることを注視するならば、次世代育成という「エンジニア」の役割は重要である。

創造的川づくりの担い手の「エンジニア」の方々と、また共感をわかちあう機会を重ねたい。新しいご縁に恵まれますように。

「川の日」ワークショップ総合コーディネーター

千葉大学教授 延藤安弘